



高須基仁さん

誤った歴史・国際感覚、海外に波紋広がる

在日米軍に「進言」した風俗業の活用発言は撤回したが、社会風俗に詳しい「モジッ出版」の高須基仁社長は「メディアに責任を押しつけるのは本音を見透かされそれを覆い隠そうとしているからだ」と読み解く。

「戦争で慰安婦制度が必要だったと言うながら不戦の誓いを立てるべきだろ。弱い立場の女性や子どもを不幸にしないために、戦争をしないといふ根本の考えが欠如しているのではないか」

橋下氏自身が、誤った歴史認識を持っているとの指摘もある。慰安婦制度について、「日本の会見でも「日本以外の国々の兵士による女性の尊厳のじゅうぶんについて口を開きるのはフェアな態度ではない」と、米英やフランス、ドイツなど各国の軍隊でも、旧日本軍と同じような問題が存在していたと訴えた。

メディア利用に失敗?

立命館大
准教授

「人権問題の難しさ分かつてない」

これに対し、神戸女学の売春施設を軍の管理下に置き、慰安所として利用するなど、メデ

院大の石川康宏教授（経済学）は「慰安婦制度と用いていた」という。

個々のレイプを混同して「欧米各国では、二十世紀前半から、売春はあじで大きく扱われるよう

立命館大の上久保誠人

の扱いがましい」

准教授（国際政治経済学）は、「週刊朝日の件

に残っていたのがもしかして、國際社会ではどう

とも理解されない発言だ

といふ」とが分かつてない

ところである。

橋下氏は会見で「誤報」と言つてはばかりなかつた。権力者が都

会報をシロと言つてゐる

ると、社会がマジしてくると、恐ろしい世

の中になる。著しく常識を欠く発言を容認し続ける」とは表現の自由をも損なう。「誤報」発言と朝日、毎日のヘイトスピーチも撤回すべきだ。（呂）

橋下徹氏が13日に行った旧日本軍の從軍慰安婦問題に関する発言は次の通り

年前

年後

あれだけ銃弾が飛び交う中、精神的に高ぶつている猛者集団に休息を与えるように、慰安婦制度が必要なのは誰だって分かる。

なぜ、日本の從軍慰安婦制度だけが取り上げられるのか。当時は世界各國が持っていた。ベトナム戦争でも朝鮮戦争でも制度としてあった。

韓国とかいろいろなところが宣伝し、歐米社会に「日本はレイプ国家だ」とみられている。ただ、暴行、脅迫をして拉致した事実は裏付けられていない。

戦争の悲劇の結果なので、慰安婦になってしまった方には、心情を理解して優しく配慮していくことが必要だ。

車を維持し、規律を保つために、当時は必要だった。國を擧げて暴行、脅迫、拉致をした証拠が出てくれば反省しなければいけないが（2007年に第一次安倍政権から監測はない）と閣議決定している。

慰安婦制度は、今は認められないが、風俗業は必要だと思う。だから（大型連休初めの）沖縄に行つた時（米軍の）司令官に会いりもつと風俗業を活用してほしい」と言った。

そしたら司令官は凜り付いたような苦笑いになつて「米軍では禁止だ」と言った。「そういう違前みたいなことを書っているからおかしくなる」と伝えた。「そうしないと海兵隊の猛者の性的エネルギーをコントロールできない」とも伝えた。建前講だと人間社会は回らない。

元慰安婦の方が大阪市役所に来るとさに、暴行、脅迫、拉致されたのかお聞かせ願いたい。（強制連行が）あるという話になれば、それを否定している人も文句を書わなくなる。

で、人権問題に触れる」との難しさ、ナイーブさを全く分かつていなかつた。国内と同じように自分の主張が伝わると思つたのが大間違いだった。大阪市長であると同時に、衆院で三番目の勢力を持つ日本維新の会の共同代表である橋下氏。

七月に迫った参院選への

影響は避けられない事態

になつていて、

上久保氏は「マスコミに責任転嫁しても國民の理解は得られない。收拾は難しいだろう」とみ

て、皮肉交じりに「う唱

える。」橋下氏は井の中のかわづ。何も知らないのに、浅はかな考え方で突つ走つただけだった。

一度世界各地を回つて大勢の人と会い、外國人が

どんな考え方を持っているのか知つた方がいい

橋下氏は会見で「誤報」と言つてはばかりなかつた。権力者が都

会報をシロと言つてゐる

ると、社会がマジしてくると、恐ろしい世

の中になる。著しく常

識を欠く発言を容認し

続ける」とは表現の自

由をも損なう。「誤

報」発言と朝日、毎日

へのヘイトスピーチも

撤回すべきだ。（呂）

大勢のメディアが注目するなかで始まった日本維新の会の橋下徹
共同代表の会見=27日、東京都千代田区の日本外特派員協会で

戦場での従軍慰安婦制度を「私が認識している」と誤報された。日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長は、十七日、日本外特派員協会（東京）の記者会見で、自身の発言が曲解されてしまったと報道の対応をあらためて非難した。メディア側の誤報は本当なのか。識者とともに検証した。（荒井六實、上田千秋）



橋下氏「慰安婦容認発言」を検証

「誤報」ではない

「毎日、会見に応じて戦場の性の問題は第二回で、その中で私の一つのワードが抜き取られて騒動のきっかけです」

国内外のメディア約四百人が集まるなか、橋下氏は会見の冒頭、立ち上がりながら「そう切りだした」と批判。橋下氏は用意した文書を読み上げ、「私の真意を読み上げ、『私の真意』騒動の発端は十三日、と正反対の意味を持つた発言とする報道が世界中を駆け巡った」と批判。

報じられたのが、今回の騒動のきっかけです」

が、(慰安婦の)女性を必要ではないかと発言したところ、「私が容認がつてそう切りだした」というと誤報された」と主張した。

橋下氏は、「私は必要だとは一切言っていない」。一方で、文脈において『戦時においては』『世界各国の軍事活動』などとしたらえで、「歴史的

「誤報」を繰り返す。石原氏が同様に「誤報」を繰り返す。橋下氏は、記者の書き出しで「当時」を入れず

橋下氏の発言を報じるのではなく、16日の朝日新聞。橋下氏は「当時の記者会見で」「当時」という言葉も全部外して」と批判した。

橋下氏「止まない騒動」

「当時は世界各国が持っていた」とある。論点でいた。ベトナム戦争でも朝鮮戦争でも制度化され、問題視してあった。「軍を維持する必要がある」と断じし規律を保つために、當時は必要だった

士に女性をあげねばならぬと、いふ発想であり、メディアは、それをほつきさせることだ」と断じる。「問題の本質は、兵士に女性をあげねばならない。論点

の発言は大きく報道され、国内外から批判の声が上がった。橋下氏は、記事の書きでしきり判断しないと、声が上がった。橋下氏は、記事の書き出しで「当時」を入れず

うとした。朝日新聞なんに「必要だった」と簡略か最低だ。「当時」とい化されたことを問題視し言葉も全部外して。毎日新聞、あのタブロイド紙も最低だ。今回は大誤報をやられた」と述べる。「政治家の談話は、批判の原因は「誤報」に

よるものだと訴えた。橋下氏が、どの記事を読み手も賞賛する必要がある。時間や字数に制約はつきりしないが、朝日が「慰安婦を必要だ」と発言したと掲載したり、毎日が「慰安婦必要」に波紋などを受けたとみられる。

「これは誤報でもなんでもない。むしろ書かれていたところが、誤報ではない」と誤報を読み違えた。橋下氏が「慰安婦制度の見出しで報道したこと」が必要なのは誰だつて分かることだ」と発言した点について

いても、「世論を読み違えた。橋下氏の周囲がそ

い違うがなれ合いで」というのがあったのだろう。話すのは、関東学院大の丸山重威元教授（ジャーナリズム論）だ。

「橋下氏が言つ誤報は、いうのがあったのだが、報道の仕方に文句をつづく」とみる。

責任を転嫁、報道の仕方に難癖